



研修参加者と記念撮影



熱心に気象機器の説明を聞く参加者

JICA(海外協力機構)様「気象業務能力向上」ご研修

11月10日、JICA「気象業務能力向上」コースの研修において当社の工場見学が実施され、ウガンダを含む参加7国、8名の気象局職員の方々が来社されました。また、弊社上澤社長の呼びかけもあり、日本気象測器工業会の加盟企業も同時参加されました。

JICA様および気象庁国際室様より、「国際貢献として日本の気象業界が各企業と連携した取り組みは初めてで、大変有益だった」とのご講評をいただき、参加者からも、「明星電気は多機種(気象、地震、宇宙)を取り扱うとともに、製造からシステム化、ソフト開発まで1社で行っているのは素晴らしいことであり、その明星電気を訪問できたことは貴重な体験であった」とのコメントをいただきました。

明星電気は、国際的な研修に参加することで、世界の気象事業をリードしていくことを目指します。

(当社営業担当:官公ソリューション営業部 長谷田光俊)



X線天文衛星「すざく」のイメージ図 (JAXA様提供)

「すざく」が宇宙竜巻の解明

日本のX線天文衛星「すざく」が竜巻状天体「トルネード」の正体を突き止め、この痕跡を観測したことが11月25日の日本天文学会誌に発表されました。

「トルネード」は、1960年に見つかった銀河系の電波を出す天体で、らせん状の渦を巻いた形をしています。ブラックホールにはガスが円盤状に降り注ぎ、その一部が高エネルギー粒子のジェット噴流として、らせんの軌跡を描き、先端はX線を放射しています。

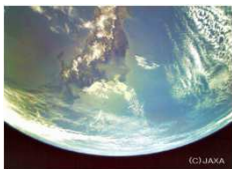
この「すざく」には、明星電気が開発を担当した硬X線検出器、冷凍機用制御装置が搭載されています。

明星電気は変化化する宇宙環境をとらえるための技術を提供しつづけてまいります。

(当社営業担当:官公ソリューション営業部 小林 忍)



温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」イメージ図 (JAXA様提供)



モニタカメラで撮影された東日本地域 (JAXA様提供)

「いぶき」(GOSAT)による観測データ

2009年1月に打上げられ観測を続けている温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT(ゴーサット))が、衛星観測データと地上観測データとを用いて、全球の月別・地域別の二酸化炭素吸収排出量(正味収支)の推定及び推定結果の不確実性(推定誤差)の算出を行なったことが発表されました。この「いぶき」のデータを導入することで、従来の地上観測データのみから算出される推定値の不確実性が低減されることが示されました。

宇宙航空研究開発機構(JAXA)様:

http://www.jaxa.jp/press/2011/10/20111028_ibuki_j.html

「いぶき」に搭載された8台のモニタカメラは明星電気が開発・製造を担当し、そのうち1台は地球上の二酸化炭素を観測するセンサーの向きをモニタして観測に貢献しております。

明星電気は変化化する地球環境をとらえるための技術を提供しつづけてまいります。

(当社営業担当:官公ソリューション営業部 小林 忍)

FROM UNDERWATER TO OUTERSPACE

明星電気は先端技術を活かし、~人と社会の豊かな環境づくりに貢献する~を

テーマに水中から宇宙までをカバーする世界のトータルソリューションプロバイダーを目指します。